



IBM Db2のバックアップ戦略

SnapCenter software

NetApp
November 06, 2025

目次

IBM Db2のバックアップ戦略	1
IBM Db2のバックアップ戦略の定義	1
Linuxホスト上のリソースの自動検出	1
サポートされるバックアップのタイプ	1
Snapshotコピーベースのバックアップ	2
SnapCenter Plug-in for IBM Db2での整合グループSnapshotの使用方法	2
SnapCenterによる不要なデータ バックアップの削除の管理	2
IBM Db2のバックアップ スケジュールを決定する際の考慮事項	2
SAP Db2の必要なバックアップ ジョブの数	3
Plug-in for IBM Db2データベースのバックアップの命名規則	3

IBM Db2のバックアップ戦略

IBM Db2のバックアップ戦略の定義

バックアップ ジョブを作成する前にバックアップ戦略を定義しておく、リソースの正常なリストアやクローニングに必要なバックアップを作成するのに役立ちます。バックアップ戦略の大部分は、サービス レベル アグリーメント (SLA)、目標復旧時間 (RTO)、および目標復旧時点 (RPO) によって決まります。

タスク概要

SLAとは、求められるサービス レベル、およびサービスに関連する多くの問題（サービスの可用性やパフォーマンスなど）への対応を定義したものです。RTOは、サービスの停止からビジネス プロセスの復旧までに必要となる時間です。RPOは、障害発生後に通常処理を再開するためにバックアップ ストレージからリカバリする必要があるファイルの経過時間に関する戦略を定義したものです。SLA、RTO、およびRPOは、データ保護戦略に関与します。

手順

1. リソースをバックアップするタイミングを決定します。
2. 必要なバックアップ ジョブの数を決定します。
3. バックアップの命名方法を決定します。
4. Snapshotコピーベースのポリシーを作成してアプリケーションと整合性のあるデータベースのSnapshotをバックアップするかどうかを決定します。
5. レプリケーションのためにNetApp SnapMirrorテクノロジーを使用するか、または長期保持のためにNetApp SnapVaultテクノロジーを使用するかを決定します。
6. ソース ストレージ システムおよびSnapMirrorデスティネーションでのSnapshotの保持期間を確認します。
7. バックアップ処理の前後にコマンドを実行するかどうかを決定し、実行する場合はプリスクリプトまたはポストスクリプトを用意します。

Linuxホスト上のリソースの自動検出

リソースとは、SnapCenterで管理するLinuxホスト上のIBM Db2データベースとインスタンスです。SnapCenter Plug-in for SAP Db2プラグインをインストールすると、そのLinuxホスト上のすべてのインスタンスのIBM Db2データベースが自動的に検出されて[Resources]ページに表示されます。

サポートされるバックアップのタイプ

バックアップ タイプでは、作成するバックアップのタイプを指定します。SnapCenterでは、IBM Db2データベースに対してSnapshotコピーベースのバックアップ タイプがサポートされます。

Snapshotコピーベースのバックアップ

Snapshotコピーベースのバックアップでは、NetApp Snapshotテクノロジーを利用して、IBM Db2データベースが格納されたボリュームのオンラインの読み取り専用のコピーが作成されます。

SnapCenter Plug-in for IBM Db2での整合グループSnapshotの使用方法

プラグインを使用して、リソース グループの整合グループSnapshotを作成することができます。整合グループとはボリュームのコンテナであり、複数のボリュームを格納して1つのエンティティとして管理できます。整合グループには複数のボリュームの同時に作成されたSnapshotが格納されるため、一連のボリュームのコピーの整合性が確保されます。

ストレージ コントローラが整合性を確保しながらSnapshotをグループ化するのを待機する時間も指定できます。利用可能な待機時間のオプションは、「緊急」、「中」、「緩和」です。また、整合グループSnapshotの処理でWrite Anywhere File Layout (WAFL) の同期を有効にするか無効にするかも選択できます。WAFLの同期を有効にすると、整合グループSnapshotのパフォーマンスが向上します。

SnapCenterによる不要なデータ バックアップの削除の管理

SnapCenterは、ストレージ システム レベルおよびファイルシステム レベルで不要なデータバックアップの削除を管理します。

保持設定に基づいて、プライマリ ストレージまたはセカンダリ ストレージのSnapshotが削除され、IBM Db2のカatalog内の対応するエントリも削除されます。

IBM Db2のバックアップ スケジュールを決定する際の考慮事項

バックアップのスケジュールを決定する場合に最も重要な要因となるのは、リソースの変更率です。使用頻度の高いリソースは1時間ごとにバックアップする必要がありますが、ほとんど使用されないリソースは1日に1回バックアップすれば十分です。その他の要因としては、組織におけるリソースの重要性、サービス レベル アグリーメント (SLA)、目標復旧時点 (RPO) などがあります。

バックアップ スケジュールには、次の2つの要素があります。

- バックアップ頻度（バックアップを実行する間隔）

バックアップ頻度は、ポリシー設定の一部であり、一部のプラグインではスケジュール タイプとも呼ばれます。たとえば、毎時、毎日、毎週、または毎月としてバックアップ頻度を設定できます。

- バックアップ スケジュール（バックアップが実行される日時）

バックアップ スケジュールは、リソースまたはリソース グループの設定の一部です。たとえば、週次バックアップのポリシーが設定されているリソースグループがある場合、毎週木曜日の午後10時にバックアップするようにスケジュールを設定できます。

SAP Db2の必要なバックアップ ジョブの数

必要なバックアップ ジョブの数を左右する要因としては、リソースのサイズ、使用中のボリュームの数、リソースの変更率、サービス レベル アグリーメント（SLA）などがあります。

Plug-in for IBM Db2データベースのバックアップの命名規則

Snapshotのデフォルトの命名規則を使用するか、カスタマイズした命名規則を使用できます。デフォルトのバックアップ命名規則ではSnapshot名にタイムスタンプが追加されるので、コピーが作成されたタイミングを特定できます。

Snapshotでは、次のデフォルトの命名規則が使用されます。

```
resourcegroupname_hostname_timestamp
```

バックアップ リソース グループには、次の例のように論理的な名前を付ける必要があります。

```
dts1_mach1x88_03-12-2015_23.17.26
```

この例では、各構文要素に次の意味があります。

- *dts1* はリソース グループ名です。
- *mach1x88* はホスト名です。
- *03-12-2015_23.17.26* は日付とタイムスタンプです。

または、[スナップショット コピーにカスタム名形式を使用する] を選択して、リソースまたはリソース グループを保護しながらスナップショット名の形式を指定することもできます。たとえば、`customtext_resourcegroup_policy_hostname`や`resourcegroup_hostname`などの形式です。デフォルトでは、Snapshot名にタイムスタンプのサフィックスが追加されます。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。